

沖縄近代史・琉球王国から沖縄県へ

琉球王国と『琉球処分』②

(第2講 2021年12月11日)

担当：前田 勇樹

(琉球大学附属図書館)

第1回：「琉球王国と『琉球処分』①」

→ 「琉球処分」前史／19世紀の東アジア国際関係の変化

第2回：「琉球王国と『琉球処分』②」

→ 「琉球処分」とは？／「琉球」はいつから「沖縄県」に？

第3回：「甘いけど、苦い。近代沖縄と黒糖」

→ 近代沖縄を襲った大不況「ソテツ地獄」

第4回：「「同化」をめぐる近現代の沖縄」

→ 沖縄にとって「日本人になる」ことの意味とは？

1879年3月~9月上旬
・琉球王府の廃滅
・沖縄県設置
・国王尚泰の東京連行

1872年
琉球藩王冊封
(琉球藩設置)

1874年

1879年
廢琉置県処分

1895年(日清戦争後)~

外務省管轄期

内務省管轄期

日清間の
「分島・改約交渉」

実質的領土化
制度的同化

近世琉球
(琉球王府)

近世琉球・琉球藩期
(琉球王府)

近代沖縄
(沖縄県庁)

「琉球処分」 … 日本による琉球(沖縄)の併合過程 / 流動的概念

1870年代の日本：国境画定

北：蝦夷地

「北海道領有」(1869年)

「樺太千島交換条約」(1874年)

南西：琉球

「琉球処分」(1879年)

南：小笠原

「小笠原回収」(1876年)

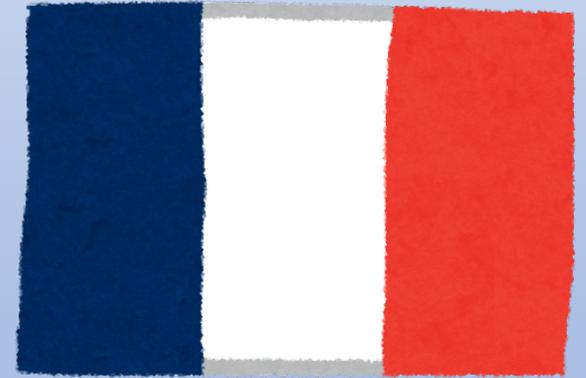
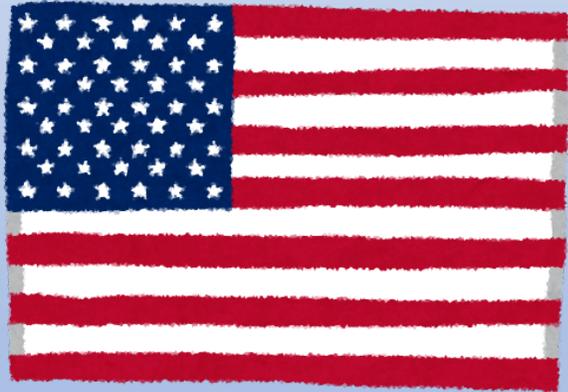
琉球藩王冊封 → 外務省管轄期

- ・ 1872年：維新慶賀使の上京

⇒ 琉球藩王冊封（琉球藩設置？）

→ 琉球の管轄は外務省に（時間をかけて併合を目指す）

⇔ 一方、西洋諸国に琉球の「併合」を通達



- ・ 1873年：副島外務卿の“口約束”

「琉球の国体政体は永久に変更せず」

内務省管轄期：強硬な内国化へ

- ・ 1874年 台湾出兵 → 日清談判
「北京議定書」…清国の台湾領有／「日本国属民等」
琉球管轄・・・外務省→内務省（日清談判直前）
→政府方針の転換：強硬な「併合」へ
- ・ 1875年 5月 熊本鎮台沖縄分遣隊を設置（翌年、着任）
7月 琉球処分官・松田道之来琉。
⇒対清関係断絶、明治年号の使用、藩政改革
尚泰の上京を要求
- ・ 1876年 裁判・警察事務の内務省移管

琉球人の救国運動

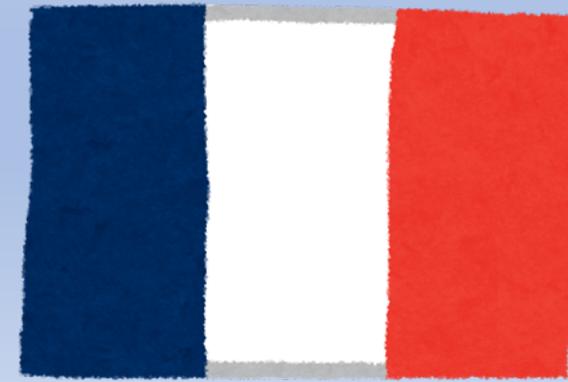
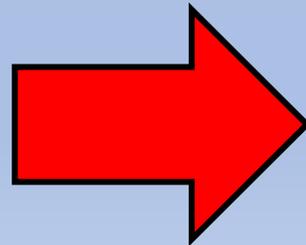
◎清国への亡命と救国嘆願

1876年 向徳宏(幸地親方)、林世功 → 明治期を通して救国運動

◎1878～79年に各国公使（米・仏・英）に対して請願書

我々の王国は小さい国家であるにもかかわらず、国家である。中国から冊封されることを禁止されるならば、締結された条約も紙屑同然となる。

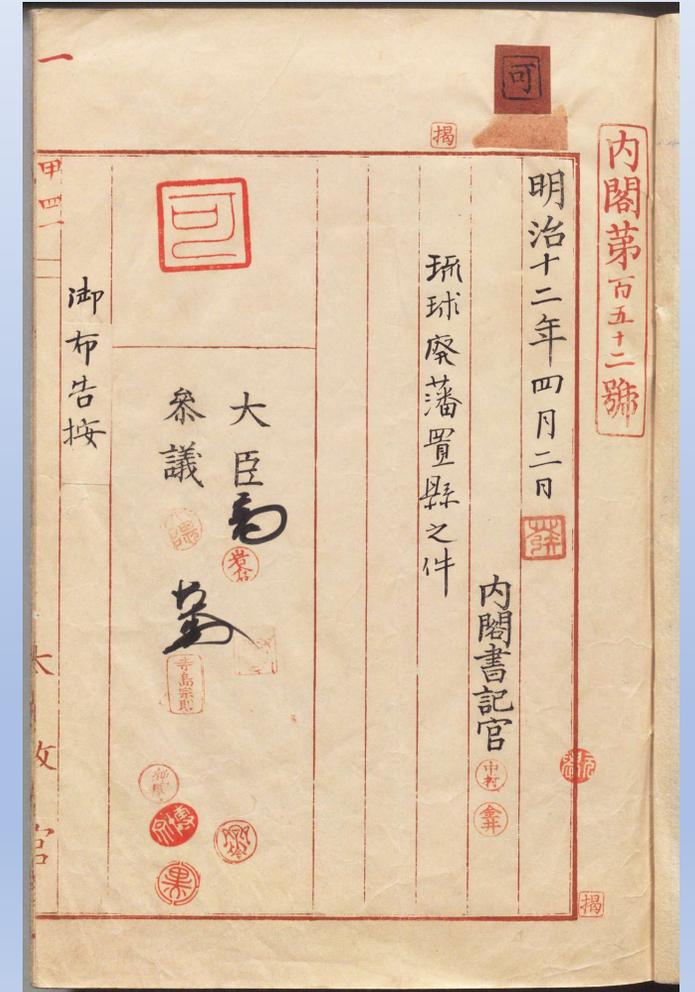
琉球の主張がどれだけ正当でも、それを支える利益がない。。。



廃琉置県処分

- ・ 1878年11月 松田道之「琉球藩処分案」を伊藤内務卿へ提出
- ・ 1879年3月27日 廃琉置県処分の通達
31日 首里城明け渡し
→ 尚家は中城御殿へ
→ 首里城は熊本鎮台が接收
- 4月4日 沖縄県設置を布告
- 5月18日 初代県令鍋島直彬着任
- 5月27日 尚泰の上京（東京連行）
- 9月上旬 王府士族、県庁へ恭順

廃琉置県処分：琉球の廃滅と沖縄県の設置
尚泰の上京



「琉球藩ヲ廢シ沖縄県ヲ被置ノ件」(国立公文書館)



『[明治期の琉球の写真 7葉]』原忠順文庫HA161 (琉球大学附属図書館所蔵)

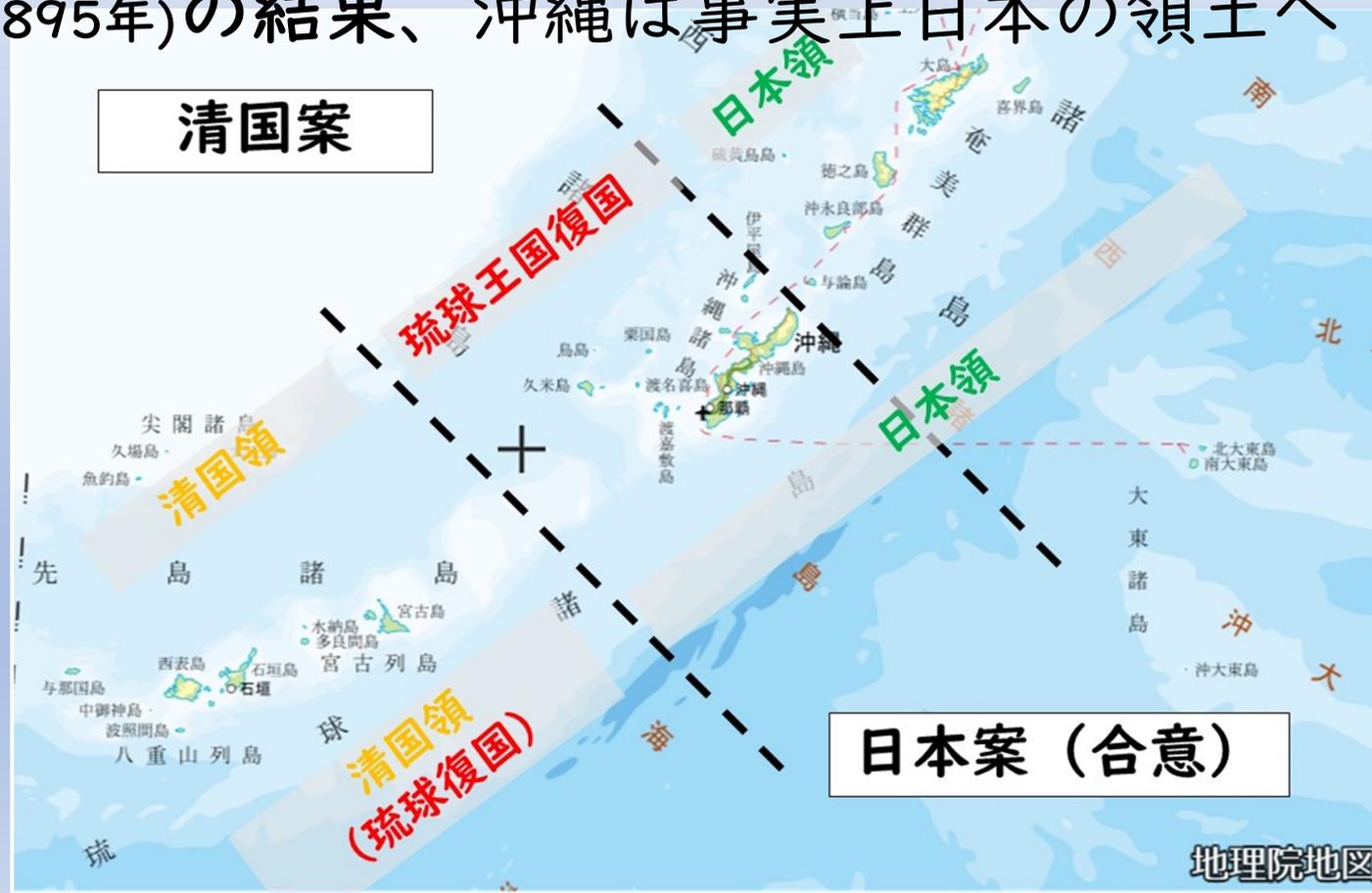
日清間の琉球領有問題

◎1880年～ 日清間の「分島改約交渉」

日清修好条規の改約／宮古・八重山へ琉球王国の復国

⇒琉球所属問題は棚上げ（脱清士族の抗議／イリ問題の影響）

⇒日清戦争(1895年)の結果、沖縄は事実上日本の領土へ



1879年3月~9月上旬
・琉球王府の廃滅
・沖縄県設置
・国王尚泰の東京連行

1872年
琉球藩王冊封
(琉球藩設置)

1874年

1879年
廢琉置県処分

1895年(日清戦争後)~

外務省管轄期

内務省管轄期

日清間の
「分島・改約交渉」

実質的領土化
制度的同化

近世琉球
(琉球王府)

近世琉球・琉球藩期
(琉球王府)

近代沖縄
(沖縄県庁)

「琉球処分」 … 日本による琉球(沖縄)の併合過程 / 流動的概念